

第3学年 道徳学習指導案

1 主題名 せいっぱい生きていこう 3－(1) 生命尊重

2 主題について

第3学年及び第4学年の内容項目3－(1)は「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にす」となっている。自分自身の生命の尊さを知り、同様に生命あるものすべてを大切にしようとする心を育てようとするものである。

命は人間にとって最も大切なものである。一度失った命は二度と元に戻すことはできないかけがえのないものである。しかし、水俣病によって、そのかけがえのない命が傷つけられ、失われていった。

そこで、子どもたちには、生きていることを当たり前のこととしてとらえるのではなく、生きることの素晴らしさを感じとらせたいと思う。水俣病という人災によって、今なお苦しんでいる人たちがいる事実を知らせることにより、かけがえのない命を大切にし、今をせいっぱい生きようとする心情を育てたい。

本教材は、少年が阿賀のお地蔵さんとの出会いを通して初めて水俣病のことを知り、患者やそれを取り巻く人々の苦しみや願いに共感して、力強く生きていこうという決意をする話である。同じように初めて水俣病のことを知る3年生の児童にとって、共感的に読み進めることができる教材である。

3 ねらい

新潟水俣病患者の生き方を知ることにより、生命を大切にし、せいっぱい生きようとする心情を育てる。

4 展開のための視点

『阿賀のお地蔵さん』という子ども向けに書かれた絵本を読みながら、水俣病の概要についてとらえさせる。また、実際に水俣病問題の解決や被害者の救済にかかわってきた人から、病気で苦しむ人やその人たちを取り巻く人々の苦しみや願いを聞くことにより、共感的な理解と自分自身の今ある健やかな命を大切にし、せいっぱい生きようとする気持ちを高めたい。

5 展開例

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○お地蔵さんの写真を見て、お地蔵さんがある場所（新潟県阿賀野市）を略地図で確認する。		・写真「阿賀のお地蔵さん」	3
□ この写真のお地蔵さんは、どこにあるのでしょうか。			
●お地蔵さんは、絵本のたかしくんが引っ越してきた阿賀野市にある。	◇PP. 1～8は、教師があらかじめ読み聞かせておく。また、次の要点を確認しておく。 ・たかしは、神戸から来た小学生であること。 ・まだ、新しい環境に慣れていないこと。 ・神戸の祖父を思い出していること。	・絵本『阿賀のお地蔵さん』（絵と文 WAKKUN 考古堂） ・黒板掲示カード	
○絵本『阿賀のお地蔵さん』P. 18の11行までの教師の音読を聞き、水俣病のあらましを知り、話し合う。			15
□ お地蔵さんの前でおじいさんは、どんな気持ちで歌を歌っていたのでしょうか。			
●工場が流し続けた毒水が入った阿賀野川の魚を食べ続けた人々が、水俣病という恐ろしい病気になった。この病気で現在も苦しんでいる多くの人がある。 ●おじいさん（参治さん）は、水俣病の仲間や亡くなった人にゆっくり休んでほしいと願って歌を歌っている。	◇黒板掲示カードを使用し、水俣病のあらましを端的にまとめる。 ◇おじいさんは、参治さんという名前で、新潟水俣病患者であることを知らせる。	・黒板掲示カード	
○絵本『阿賀のお地蔵さん』PP. 19～23の読み聞かせを聞き、患者のつらい気持ちや頑張っている様子や願いを知り、発表する。			15
□ まゆ毛のおっちゃん、旗野さんが聞いて欲しい三つのことは何でしょうか。			

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
●患者さんは、「患者の苦しみと願い」、「つらくても頑張っていること」「みんなにも水俣病のことを考えてほしいこと」を思っている。	◇まゆげのおっちゃんは、旗野さんという名前であることを知らせる。 ◇患者の苦しみと、その苦しみの中でも力強く生きている人がいることをとらえさせる。 ◇DVDの「旗野さんの話」の後で、同内容のプリントを配布する。「手足の変形」について補足説明をする。	・DVD「旗野さんのお話」 ・プリント「旗野さんのお話」 ・補助資料「まがったまま元にもどらなくなった指」(『未来へ語りついで』P.18)	
○絵本『阿賀のお地藏さん』P.24 から最後まで読み聞かせを聞き、たかしが旗野さんや参治さんに出会って話を聞き、元気に自転車をこいで行ったのはどうしてか考え、シートに書き、発表する。	◇旗野さんや参治さんに出会ったたかしの変化に着目させる。	・学習シート	12
□ たかしが、また「だしの風に向かって」元気に自転車をこいで行ったわけを考えましょう。			
●患者は、つらくても精一杯生きている。また、心から応援してくれる人がいる。私たちもつらいことがあっても、精一杯元気に暮らしていきたい。 ○教師の話「新潟水俣病患者の生き方から感じた経験」を聞く。	◇できるだけ大勢にシートに書いたことを発表させる。また、発表は共感的に受け止めさせる。 ◇子どもたちが考えたことを補強するような立場から話をする。		

《評価》

せいいっぱい生きていこうという心情が高まったか、学習シートへの書き込みや発言内容からとらえる。

【資料】

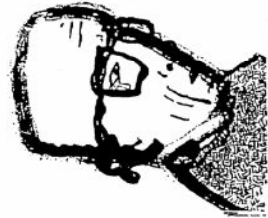
- ・2006 『阿賀のお地蔵さん』 涌嶋克己（WAKKUN） 考古堂
- ・DVD「旗野さんのお話」（出演 旗野 秀人さん） 自作DVD
- ・プリント「旗野秀人さんのお話」
- ・学習シート「阿賀のお地蔵さん」

【補助資料】

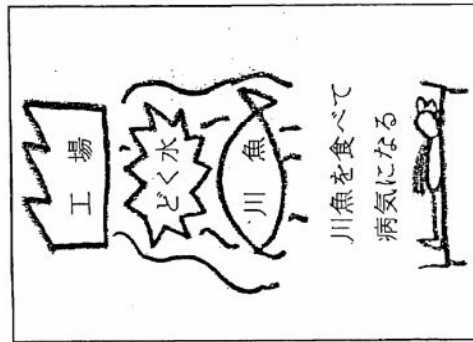
- ・「まがったまま元にもどらなくなった指」（『未来へ語りついで』P.18）

あがのおじぞうさん

おじぞうさんの
写真



水俣病



はたのさんの

聞いてほしいこと

- ① かんじゃさんの苦しき
- ② つらくてもがんばって生きている
- ③ みんなにも考えてほしい



たかしが、元気に自転車をこいでいった時、

どんなことを考えていたのだろうか。



7 資料

○プリント「旗野秀人さんのお話」

旗野秀人さんのお話



みなさんに三つ聞いてほしいことがあります。

一つ目は、がん者さんの苦しさを分かってほしいことです。たとえば、絵本に出てくる「渡辺さんじ」さんは、一見、元気そうなのですが、じつは、夜ねむれないほど体がしびれたり、指がまがったり、手足がへんけい（形がかわる）していたりするのです。そういうさんじさんですが、若いころはとてもしょうぶで、屋根ふきしよく人でした。とてものはたらき者でひょうばんでした。

二つ目は、つらくてもがんばって生きているということを知ってほしいのです。たとえば、さんじさんは、病気をかかえていても、大好きな歌を歌いながら、全国の学校などをまわって、水俣病のことを知ってもらうためにがんばっているのです。

三つ目は、みなさんが絵本を読んだり、水俣病のお話を聞いたりして、考えたことや思ったことを教えてほしいということです。

あがのおじぞうさん

名前	
----	--

たかしが、また、「だしの風に向かつて」元気に自転車をこいで
行った時、どんなことを考えていたのだろう。

